

工学部

協創経営プログラム

取得できる学位 ★学士（工学）

■ プログラムの概要

本プログラムでは、理工系の知識と人文社会系の知識を駆使し、社会で起きている多様で複雑な現象から具体的に課題を発見し、多様な能力を持った人々をチームとしてまとめ、解決まで導くことができる人材の育成を目指す。カリキュラムは座学に加え、系統的インターンシップ、PBL型アクティブラーニングなどの実践的科目を軸に構成される。これらの履修により、チームワーク力、コミュニケーション力、マネジメント力、リーダーシップを段階的に涵養し、複眼的に地域と世界を俯瞰、牽引できる真の国際リーダー人材力の習得を目指す。

■ 人材育成目標

科学と技術を中心とする広範な知識を駆使し、グローバルな視点から地域社会や産業の発展に貢献し得るビジネス・リーダーを育成する。

■ プログラムの到達目標（期待される学修成果）

| 1 | 知識・理解

- 自然現象を分析するために必要な自然科学・情報技術の基礎知識。
- 産業財産権、著作権、種苗法等の知的財産権の概念と法制度に関する基礎知識を有し、それらの産業的活用について理解できる。
- 課題解決に必要な特定に工学分野の基礎知識を系統的に理解できる。
- インターンシップ等の実践科目を通じ、社会における企業等の経済活動の実際を経験的かつ論理的に理解する。

| 2 | 当該分野固有の能力

- 種々のグループ活動において、異なる背景を持つメンバー間の価値観、利害、意見を調整、集約し、集団として最高のパフォーマンスを発揮することで円滑に目的を達成できる。
- 統計、アンケート、インタビューなどの数量データを用い、社会や市場、環境等を定量的に分析、把握できる。
- 社会科学的視座から工学と社会を結び、グローバルな視点を有して地域社会や産業の発展に貢献できる。

| 3 | 汎用的能力

- グループでの共同作業を通して、協力して互いに能力を高め合い、要求された課題を達成できる。
- 自らの考えを的確に記述・表現し、他者と建設的に討議できる。
- 工学から経営にわたる領域において、英語を用いて円滑なコミュニケーションができる。
- 社会に潜在する課題を探索し、顕在化することで課題の解決に必要な知識、手段とを結びつけ、解決までの道のりを示すことができる。
- 課題解決のために求められる専門的学術分野・科目を特定し、自ら学習、習得した成果をもって具体的解決策を提示できる。

| 4 | 態度・姿勢

- a) 様々な文化や学問に触れ、吸収・融合することで新しい価値を貪欲に創造し続けられる。
- b) グループでの共同作業においてメンバーの意見に傾聴しつつ、障害を克服して目標達成を図ると同時に、グループの総合力向上に常に配慮し続けられる。
- c) 技術者としての倫理・責任を自覚することができる。
- d) 科学技術が人間社会や環境に及ぼす影響と効果を多面的に理解・予想できる。
- e) 将来の課題を予想し、求められるであろう学問領域を常に自主的かつ継続的に学習する意欲を持つ。

■ プログラムの履修要件

本プログラム履修の目標は、『工学的側面から様々な技術を統合し解決策を見出すことのできる人材力』、『構想（プロデュース）力やマネジメント力、リーダーシップをもつ人材力』、『社会科学的視座から世界に通用する地域産業の発展に貢献できる人材力』などを習得することにある。そのため、本プログラムを履修する学生には以下の要件を求める。

- ・高等学校で学んだ基礎知識及び大学における勉学に必要な基礎学力、思考力、勉学意欲、主体性を持ち、工学と経営・経済学を融合した「協創経営」への高い関心を有している。
- ・所定の工学科共通科目及び融合領域分野の導入科目を修得している。
- ・工学的分野から明確な問題意識を醸成しつつ、積極的に経営・経済学を融合した協創経営への高い関心をもっている。

■ カリキュラム立案と学修方法についての基本方針

本プログラムでは、入学から卒業までの系統的な実践型インターンシップ（学外）を中心に据えて履修の流れを設計する。さらに学習効果を確実にするため、具体的には以下の基本構成とする。

- ・1年次では工学部学生として工学全体を俯瞰し、専門を学ぶことに対する目的意識の確立を行うために、工学部及び分野別導入科目を修得する。
- ・産業や社会に潜む多様な問題の発見とその解決を実践型プロジェクト学習を通して可能とするために、各自の問題意識に基づいた選択科目を修得する。
- ・選択科目は特定の工学分野を軸にして他の関連分野を自主的に修得し、加えてマネジメント系、ビジネス系の必修基礎科目を修得する。
- ・卒業年次には長期の実践型チームインターンシップを実施し、それまでに各人が履修し培ってきた基礎知識を応用し、同時にチームを統合しながら多様な課題に対する解決策を見出し、チームとしてそれをまとめ上げ、解決に導く能力を修得する。